

用語解説

1 アウトソーシング

市役所の業務を外部に委託すること。業務の効率化を目的として、職員が携わる業務を絞り込み、特に専門的な知識を要するものや定型的な業務の全部または一部を外部に委託することです。

2 人事評価制度

職員が職務を遂行するうえで発揮した能力及び成果（業績）を評価し、意欲の向上、人材の育成、人事配置等に活用する中で、組織全体の活性化や効率的な行政運営につなげようとする取り組みです。

3 経常収支比率

毎年経常的に収入される財源（市税、普通交付税等）のうち、必ず支出しなければならない経費（人件費、扶助費、公債費等）が占める割合のこと。数字が高くなるほど財政に余裕がないことを表している。目安として70%から80%程度が適正とされています。

4 実質公債費比率

市が収入する一般財源に対する負債返済の割合のこと。3か年の平均値を使用し、18%以上では、新たな借金をするために県知事の許可が必要となり、25%以上では、借金を制限され（早期健全化団体）、35%以上だと、公共事業向けの借金が制限されず（財政再生団体）。

5 将来負担比率

将来負担しなければならない実質的な負債額が標準的な収入に対して占める割合のこと。350%以上の場合、借金が制限され、早期健全化団体に指定されます。

6 財政力指数

財政力を示す指標で、通常は過去3か年の平均値を使います。

7 インソーシング

アウトソーシング（外部委託）に移行する前段として、職員が携わる業務の全部または一部を臨時的職員に担当してもらい、職員の業務負荷を軽減するとともに、効率的な業務執行が可能となるか確認するものです。

8 新しい公共空間

これまで公共サービスは行政が独占的に提供してきましたが、公共の守備範囲が拡大する一方、職員数の削減や財政状況の悪化により、行政で対応する範囲を縮小せざるを得なくなっている。このため、民間企業や市民も公共サービスの担い手として活動してもらうための新しい仕組みの事です。

9 行政評価制度

行政の活動を政策・施策・事務事業に分類し、それぞれの段階に応じて設定した目標に対し、成果がどれだけ達成できたかを評価する仕組みの事です。本市では、予算や職員など経営資源の配分、事務事業実施の取捨選択、優先度を判断する上での重要なツールとして活用し、行政経営の中核的な仕組みと位置付けています。

10 パブリックコメント

行政が市民に関係する重要な計画や制度を制定しようとするときに、広く市民の意見を募集するための手続きのことを言います。

11 ダウンサイジング

組織の規模を小さくすることです。

12 公共施設白書

新地方公会計制度の導入に伴い、市が保有する全財産の把握が必要となり、その過程で、市が保有する公共施設について、その状態や利用状況などを調査・把握し、集約したものです。

13 マネジメントサイクル

業務管理手法の一つ。別名P(計画)、D(実行)、C(評価)、A(改善)サイクルともいう。毎日の仕事を遂行する上でいかに効率よく時間管理して行くかという基本的な手順の事です。

14 OJT (職場内研修)

オン・ザ・ジョブトレーニングの略称。教育訓練の手法の一つ。職場の上司が部下に対し具体的な仕事を通して、仕事に必要な知識・技術・技能・態度などを伝えていくことにより、業務処理能力などを身につけていく活動のことで、人材育成の中心的な機能とされています。

15 新地方公会計制度

現金主義、単式簿記を特徴とする現在の地方自治体の公会計制度に対して、発生主義、複式簿記等の企業会計手法を導入する取り組みで、財務4表（バランスシート、行政コスト計算書、資金収支計算書、純資産変動計算書）を公表し、財政状況をこれまで以上に市民に分かりやすく説明しようとするものです。